

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

平成30年 春 第54号

あかり

A K A R I

3月26日は
パープル・デー

パープル・デーとは、てんかんについて理解を深めてもらうための国際的なイベントです。当日は紫色の物を身につけて過ごします。

- ライトアップ・セレモニー～市庁舎を紫に～——1
- パープルデーのイベントに参加して——2
- 静岡で開催された「ベーテル150周年記念展」——3
- 耐震補強工事完了——3
- ベーテルでfamoses^{フアモセス}トレーナー研修が開催されました—4
- 新しいリハビリテーション機器が導入されました—5
- 全国てんかんセンター協議会総会に参加して——5
- てんかんの市民公開講座と個別相談会を開催しました 6
- 外来再診の診療体制/医療連携室——7
- はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本 8

ライトアップ・セレモニー ～市庁舎を紫に～



パープル・デーに合わせて市庁舎ライトアップを行いました。ライトアップは今年で3年目となります。

セレモニーは昨年に引き続き、静岡市田辺市長と静岡けやきライオンズクラブ会長をお迎えして行いました。

院長の挨拶の後、田辺市長から暖かいお言葉をいただきました。



式典に華を添えてくれたのは静岡英和女学院ハンドベルクワイヤーさんたちです。

清らかなメロディーを奏でていると、行き交う市民が立ち止まり観客となってくれました。
(企画課長 遠山 憲之)

パープルデーのイベントに参加して

臨床検査科
渡邊 宏美



3月26日はパープルデーです。カナダのメーガンさんが始めた紫色の物を身につけ、てんかんの啓発活動をする運動は現在、全世界で行われています。

当院も3年前より静岡市内で行われているSBSラジオのイベントに参加しています。今年は3月24、25日の週末に静岡市役所前の青葉通りで行いました。

今年は2日間とも天気に恵まれ暖かく、日曜日にはライオンズクラブ協力のラベンダーの鉢配布もあり、たくさんの人でにぎわいました。私は当院のタイからの研修医師二人も誘って、一緒に参加しました。朝の人通りが少なかった頃、ぎこちなかった私たちもだんだん慣れ、昼過ぎになるといろいろな方に足を止めて頂くことができました。

具体的には[てんかんクイズ]を通して病気の理解を深めて頂くことなのですが、他の食品や自動車のブースとは違い、病院ブースにはみなさん近寄りやすいような印象でした。

それに引き替え子供さんは当院の患者様の家族による手作りの品、職員知人による玩具に引き寄せられて来訪なんてことも多く、今年始めの静岡新聞に掲載された「無知の知」という特集記事のことで話しかけてくださる方もいました。当院の患者様たちにも手伝って頂くことができ、また患者様の声を聞くこともできました。印象に残った会話に「てんかんって耳にするけど、よく分からなかった」「よく朝礼で倒れた子がいたけど、それもかしら?」「てんかんって、うつらないの?」「てんかんって遺伝でしょ?」があります。ニュースでは事故ばかり取り上げられて病気自体を取り上げられることは少なく、知る機会がなかったようです。このようなイベントを機会に、てんかんが誰にでもかかりうる可能性があり、いろいろな症状があることを理解して頂き、一人でも多くの方が早期発見、治療につながるよう協力をみなさんから得られれば良いと思っています。



看護師さんを募集しています!

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り ②非常勤職員（外来、通所事業、病棟）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか? 相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-1@shizuokamind.org

静岡で開催された「ベートル150周年記念展」



静岡市民ギャラリーで2月28日～3月6日
当院で3月7日～14日に開催

ドイツ・ビーレフェルト市にあるフォン・ボーデルシュビング慈善団体ベートル、通称「ベートル」は、世界最大の総合医療福祉施設で、1867年にてんかんのある人のケアからはじまりました。現在はその活動は非常に多岐にわたり、病気のある人や障害のある人、社会的な困難を抱える人などに医療や福祉支援、教育や職業訓練、働く場所を提供し、これらの活動に携わる専門職を養成する大学まであります。約4km²の敷地は一般の宅地や企業とつながっています。

ベートルは、健康な人も病気のある人も障害のある人も包摂するコミュニティーづくり

をコンセプトとしています。この1月にベートルを訪ねたときには、この共生(ユニバーサル)がしっかりと実践されているのを、とても快く体感しました。

ベートル内には日本庭園があります。2003年の竣工には、当院もお手伝いをしました。てんかんのある若い人たちにより、職業訓練(造園業)の一環として、丁寧に管理されています。

ベートルは昨年、創立150周年を祝いました。今年、日本全国12箇所でその歴史と現在を、そこで創作された絵画作品とともに紹介する記念展示会が開催されています。静岡でも3月に開催しました。展示をご覧になった方は、日本でもこのような充実した施設がほしい、自立して生きがいをもって生活している姿が素晴らしい、これからの日本に必要な街作りだ、といった印象を綴ってくださいました。

当院はベートルのスタッフと長い交流があります。今後も親交を深めて行きたいと願っています。(院長 井上 有史)

耐震補強工事完了

企画課長 遠山 憲之

2017年8月7日から始まった外来管理棟の耐震補強工事が2月末で完了いたしました。その間、患者さんをはじめ皆様にはご迷惑をおかけしました。

施工方法は、プレスという補強のための筋交いを、南面の既存の柱に接合させて、建物の強度を補いました。また、屋上のひさしの削り、揺れをpushしました。

写真は工事終盤の架設を撤去したときに撮影しました。お気づきのとおりプレスは着色したところがあり富士山をイメージしたデザインになっています。お立ち寄りの際にご覧ください。



この工事は静岡市住宅・建築物等耐震化促進事業等の補助を受けて施工しました。

ベートルでファモーゼス トレーナー研修が開催されました

A4病棟 副看護師長 原 稔枝



2018年1月22日～25日、ドイツの総合福祉施設ベートルで、famoses(ファモーゼス)トレーナー研修が開催され、当院から井上院長をはじめ、小児科医師、精神科医師、看護師、臨床心理士、保育士、作業療法士と、てんかん協会から1名の計11名で参加させていただきました。

当院では、大人の方を対象としたてんかんのある人のための学習プログラムMOSES(モーゼス)を2013年から導入し、現在も定期的に行っています。今回参加させていただいたのは、子どもと家族を対象としたてんかん学習プログラムfamosesを行うためのトレーナー研修です。famosesとは、学童期から子どもとその家族が、病気について正しい知識を学び、学校や社会に参加できる準備を共に考え、その子らしく成長していけるように支援することを目的としています。

創立150年を迎えた歴史あるベートルは、ドイツのビーレフェルトという街に位置し、医療・福祉・教育と多くの施設を抱え、敷地は3km×2kmと広大であり、スタッフは17000人以上、ケアを必要とする方は21000人にもおよびます。研修では、自然豊かな美しい景観と心温かいス

タッフの方々に迎えていただき、トレーナー研修に加え、てんかんセンター、職業訓練、生活訓練施設等の見学もさせていただきました。てんかんセンターでは、施設内のあらゆる場所に色彩豊かな絵画やアート作品が飾られており、心や感覚を刺激する日常を自然と生み出している環境に大変感銘を受けました。また職業訓練施設では、てんかんや障がいをもちながらも、仕事に真摯に向き合う姿勢と、自信に溢れた笑顔、そしてそこで働くスタッフの温かいまなざしと熱い志に触れ、同じてんかんセンターで働く者として、最も大切なことを学ばせていただきました。

現在、famosesを当院に導入していくために、ベートルで学んだ内容を日本版にアレンジし、準備を進めています。日本でも早い段階から自分の病気を正しく理解し、周りの人へ「てんかんは怖い病気ではない」ということを自ら伝えていけることが必要であり、家族も子どものがんばりを支えてあげることが大切です。病気があっても自分らしく自信をもって生きていけるように、このfamosesが子どもたちや家族の人生にプラスになるように、ベートルの志を受け継ぎ、実現に向けて多職種と共に取り組んでゆきたいと思います。



新しいリハビリテーション機器が導入されました

理学療法士
平松 文仁

リハビリテーション科では2018年2月より運動療法室にトレッドミルと可動式部分免荷装置を導入しています。

トレッドミルとは、動くベルト状で歩行を行う運動療法機器です。時間や速度、傾斜などを調整しながら歩行ができるので、患者様の歩行能力や目的にあわせて練習が可能となります。

可動式部分免荷装置とはハーネスを装着して体重を部分的に免荷することができます。自分で体重を支えられない患者様でも起立や歩行訓練が可能です。

これらを併用し、体重を免荷して身体を支えながらトレッドミル上で歩行練習等を実施します。そして、療法士が援助して体重移動や起立・歩行に要する一連の下肢動

作の習得を促し、効率的な歩行訓練が可能となります。

当院では、運動療法中にてんかん患者様の発作による転倒や神経難病患者様のバランス能力の低下による転倒の危険性があります。この運動療法機器を使用することで転倒の危険性が少なく安全な起立・歩行訓練が実施でき、必要な動作練習を幅広くサポートできると考えています。



全国てんかんセンター協議会総会に参加して

臨床検査科 石坂 みゆき

2018年2月10、11日に第5回全国てんかんセンター協議会総会(JEPICA)へポスター発表で参加を致しました。今回は新潟県で行われ、北陸地方へ行くのは始めてだった私は大寒波による大雪に行く前から心配しておりました。しかし当日は晴天、拍子抜けしてしまいました。私は発表することも始めてとても緊張しましたが、質問にも何とか答え、無事に終わることができました。その後の懇親会では日本酒やお米、へぎそば等たくさんの特産品があり、どれ

もとても美味しかったです。中でも『北雪』という日本酒は地元の方が「これが一番高価で美味しい!」と勧めてくださり、感動する旨さで、もっと飲んでおけばよかったと思いました。これに参加することにより、他のてんかん診療に携わる施設の人たちと交流や情報交換することができ、本当に参加して良かったと思いました。また機会があれば、ぜひ参加して、他施設や他職種の人との繋がりと美味しいものに出会いたいと思いました。

てんかんの市民公開講座と 個別相談会を開催しました

経営企画室長 河村 広明

テーマ：「てんかんを知ろう」

日 程：平成30年2月25日(日)

場 所：プラサ ヴェルデ 4階401会議室 (静岡県沼津市)

共 催：国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

(公社)日本てんかん協会 静岡県支部

参加者：一般市民84名、個別相談7件

【概要】

静岡てんかん・神経医療センターは、平成27年11月に静岡県よりてんかん地域診療連携体制整備事業の「てんかん診療拠点機関」の指定を受けました。このたび、平成30年2月25日(日曜日)に「てんかん診療拠点機関」の役割の一つであるてんかん患者さんやその家族、地域住民等への普及啓発として、静岡県西部、中部、東部地域での市民公開講座・個別相談会を開催する年間計画の3回目として静岡県東部地域の沼津市において、(公社)日本てんかん協会静岡県支部と共催で市民公開講座と個別相談会を開催しました。

市民公開講座では、冒頭、当センターの久保田英幹統括診療部長の開会挨拶と「てんかん地域診療連携体制整備事業」の概要説明があり、その後、第1部として重松秀夫(静岡てんかん・神経医療センター療養診療部長)による「てんかんの診断と治療の道す



じ」、第2部として井口京子、豊泉三枝子看護師(静岡てんかん・神経医療センター看護部)による「てんかん発作の介助(講演と実演)と質疑応答が約2時間にわたって行われました。参加者の方々は真剣に聞かれ質疑応答も活発に行われました。また、院内認定看護師の「てんかん発作の介助」の実演には参加者の方にもお手伝い頂き発作の介助の実演を披露しました。

講演終了後には、希望者の方への個別相談会を、久保田・重松部長に行って頂きました。

また、終了後に参加された皆様にアンケートにご協力頂きましたが、概ね「よかった」、「とても良かった」と評価頂き、てんかん発作の介助についても、実演があり解りやすかった等と、とても好評でした。

当センターは、静岡県のてんかん拠点機関として、てんかん診療に関する医療機関連携体制・治療体制の整備や、患者さんと家族に対する相談支援、また、医療関連職や福祉・教育職の為の研修事業、てんかんに関する正しい知識の普及啓発を実施しています。

引き続きこれからも、市民公開講座や出前講座、相談会等や専門職対象とした研修会等を行い、てんかん医療の質の向上に貢献出来る医療機関として努めて行きたいと考えています。ご協力を宜しくお願い致します。

外来再診の診療体制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室		山崎	中岡	山崎	白井直
第2診察室	久保田英	池田 <small>午前のみ</small>		久保田英	
第3診察室	今井		井上		近藤
第4診察室		鳥取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	池田浩	池田浩	寺田清	寺田清
第6診察室	芳村			芳村	松平
第7診察室		荒木		美根	山口
第8診察室		西田	高橋		
第9診察室	重松			大谷	大谷

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	午前 寺田達	小尾	小尾		小尾
	午後 小尾				
第11診察室	杉浦	杉浦	寺田達		山崎/馬場國尾内(第4)

特殊外来

転倒予防外来	随時	小尾
認知症疾患医療センター	月・水	寺田達・小尾
遺伝相談	随時	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁
ねむけ外来	月	寺田清
包括的てんかん外科初診外来	火	白井

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@shizuokamind.org

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。

上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■

寺田 清人 佐藤 美喜子 坪井 千浩
 矢嶋 隆宏 佐倉 裕二 松田雄一朗
 堀 友輔 高橋 輝 鈴木 健之
 大山 敏生

発行■平成30年4月27日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@shizuokamind.org

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約は、ご本人・ご家族から当院地域医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院地域医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,700円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

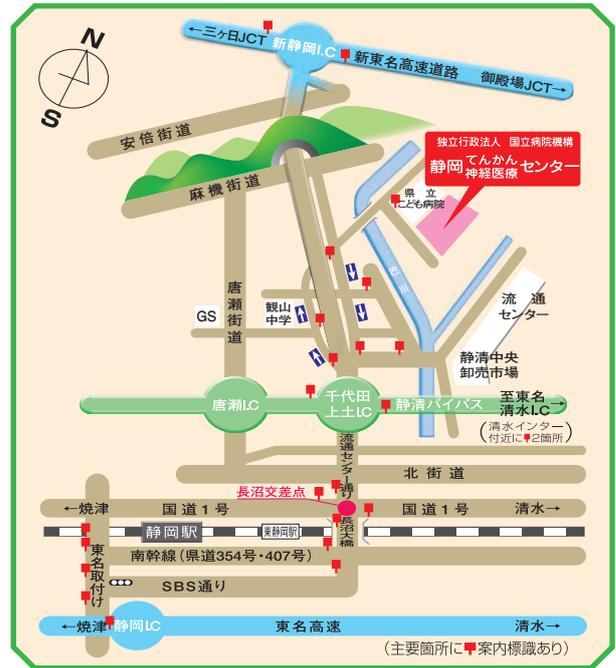
セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	● 東京方面から ● 東名高速清水インターより、静岡バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。 ● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
	● 名古屋方面から ● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。 ● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～
【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

●てんかんをめぐるアート展2016

【日興美術社、2016年】

当院が主催した第50回日本てんかん学会学術集会の折りに、「てんかんをめぐるアート展」を開催しました。その図録です。全国から集まった160点を収録しています。当院にて入手可能です。

●プライマリ・ケアのための

新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)